

風薫る皐月、5月になりました。

ゴールデンウィークもあつという間に去り、また仕事の時間が戻ってきました。学校では授業が本格化しますが、すぐに中間試験が始まる場所もあるでしょう。大学だとかつては五月病が話題になりましたが、形はかわっても同じような問題はおこっているかもしれません。

5月は憲法記念日もあり、経済よりも政治に注目がゆく季節です。そんななかですが、今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【1】最新活動報告

4月の活動を報告します。

【2】イベントカレンダー

これからの活動の予定などを紹介します。

【3】授業のヒント

【1】最新活動報告

5月は各地で部会が実施されました。活発に行われたその内容を報告します。

■東京部会 (No. 66) が開催されました。

日時：2014年4月17日(木) 19時00分～21時00分

場所：日本大学経済学部

主な内容：出席者は15名でした。

(1) ネットワーク代表の篠原先生から以下の報告がありました。

読売新聞東京本社から「よみうり経済教室」(案)に関して協力依頼がありました。また、次年度の年次大会は東京(日大経済)で開催予定です。

(2) 夏休み経済教室に関して、東京証券取引所の石山さんから配布された資料にもとづき、プログラムを修正し、講座の細部をつめました。

(3) 資料と教材に関して、部会資料や教材をアップするサーバーを契約する可能性を検討したいとの提案がありました。

(4) 北海道の山崎辰也先生がface timeで参加されました。「身近な都市問題を事例とした「見方や考え方」を深める授業開発」の指導案を説明され、討議が行われました。テレビ会議での参加は初めての試みです。

(5) 大倉泰裕先生(千葉県立松戸向陽高校)から「経済教育と法教育の融合

について」にもとづいた提案がありました。教科書の配置に沿って生産、分配、消費の観点から経済と法に関わる問題を取りあげ、どのように考えるかを問う提案です。

(6) 中沖さん（清水書院）から「国際収支関連統計の見直し」、小巻泰之先生（日本大学）から「国際収支統計の見直し（資金から資産へ）」が配布され、それらにもとづいて説明がありました。なお、中沖さんからデジタルデータをお送りいただきましたので、必要な方はお申し出ください。

(7) 先生方が使えるような教材をウェブに提示するため、ネットワーク宛に送って頂きたいという呼びかけがありました。

内容の詳細は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo066report.pdf>

■京都部会（No. 24）が開催されました。

日時：2014年4月25日（金）19時00分～21時00分

場所：同志社大学 良心館4階第二共同研究室

主な内容：参加者8名でした。

(1) 経済教育ネットワークの篠原総一代表から以下の報告がされました。まず地理を兼ねた経済についての融合教材の開発が、インドやブラジルなどの国を対象に河原和之先生を中心に進められていること、また、部会にインターネット参加できる方法が検討されていること、さらに、各部会で持ち込まれた開発教材や資料などを見られるホーム・ページでの立ち上げの検討などが報告されました。

8月に開催予定の「先生のための夏休み経済教室」に関するほぼ最終案が紹介されました。

(2) 国際収支関連統計の見直しについて取り上げられ、理解しやすい方法として自動車の輸出入でイメージして考えるとよいということが紹介されました。

(3) 下村和平先生（山城高校）から「希少性」について教えるときに配布されたプリントの紹介がなされました。取り上げられた事例が大学進学で、現在割引価値の概念が登場する内容であったため、これをどのように高校生に教えるかについて論議されました。

内容の詳細は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/kyoto/kyoto024report.pdf>

■大阪部会（No. 38）が開催されました。

日時：2014年4月26日（土）18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト

主な内容：出席者14名でした。

(1) 篠原代表（同志社大学）から、最近の活動報告がありました。先生方の開発教材をもっとネットワークHPにアップする計画と「先生のための夏休み経済教室」のプログラムが紹介されました。また、読売新聞東京本社

から金融経済教育プログラムに対する協力依頼がありました。

(2) 夏の経済教室で「新聞を使った楽しい経済の授業」を担当する予定の佐藤敏彦先生（茨木・彩都西中学校）からの実践例報告がされました。

(3) 河原和之先生から、加藤一誠先生（日本大学）らとともに日本経済教育センターで開発中の地理教材「グローバル社会を生き抜くためにーブラジルを知ろう」の紹介がありました。これはインドに続くもので、シリーズとして次回は南アフリカが予定されています。

(4) 李洪俊先生（長吉中学校）から、財政に関する授業教材が紹介されました。地元の競技場の費用に関するクイズから始まり、税金の取り方、地元で税金をとるとするとどんな取り方が考えられるかという構成の授業案です。

(5) 山本雅康先生（奈良学園中学校高等学校）から、中学校での金融の教え方について、中学生では理解が難しい内容が教科書にまで取り上げられすぎているという疑問が投げかけられ、議論がされました。

内容に関する詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka38report.pdf>

【 2 】 イベントカレンダー

これからの予定を開催順に掲載します。

■ 札幌部会 (No. 9) を開催します

日時：2014年5月17日（土） 14時30分～17時00分

場所：北海道教育大学札幌サテライト教室

内容、参加方法は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo010flyer.pdf>

■ 東京部会 (No. 67) を開催します

日時：2014年5月29日（木） 19時00分～21時00分

場所：日本大学経済学部会議室

内容、参加方法は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo067flyer.pdf>

■ 大阪部会 (No. 39) を開催します

日時：2014年6月21日（土） 18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト

大阪市北区梅田1-12-17 梅田スクエアビルディング 17階(予定)

内容、参加方法は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka39flyerR.pdf>

■京都部会 (No. 25)を開催します

日時：2014年6月27日(金)19時00分～21時00分

場所：同志社大学 良心館4階第二共同研究室

内容、参加方法は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/kyoto/kyoto025flyer.pdf>

■「夏の経済教室」の内容が確定しました。(日程は再掲です)

名古屋会場 2014年8月4日(月)中学向け ウィンクあいち

2014年8月5日(火)高校向け ウィンクあいち

大阪会場 2014年8月7日(木)中学向け 国民会館

2014年8月8日(金)高校向け 国民会館

東京会場 2014年8月14日(木)15日(金)高校向け 東証ホール

2014年8月18日(月)19日(火)中学向け 東証ホール

今年で8回目になる夏の教室ですが、本来の趣旨をさらに生かすために、東京の高校では今年新しい先生や経済の苦手な先生のために、経済の基本を学ぶBasic講座やテスト問題の作り方など、あすからの授業で役立つ講座を多数用意しました。中学校向けでは、新聞を使った授業、地理と経済を融合した教材などの紹介もあります。歴史シリーズでは、ニクソンショック前後の経済を扱います。教科書を読み解くシリーズでは、名古屋、大阪ではGDPの読み方、三会場ではM&A、法と経済、アベノミックスを扱います。東京の高校では大学入試問題も解説します。東京の講演は、指導要領や教科書づくりにも関係されている一橋大学の浅子和美先生をお願いしました。

案内は6月上旬には各地の学校に送付されます。また、東京証券取引所のHPにもアップされる予定です。ご期待ください。

【 3 】授業のヒント

■テストの工夫

これから中間考査の準備をする先生方も多いことだろうと思います。今回はテストに関する話題をいくつか提供してみます。

一つは、事前に問題をかなり予告しておくことです。

特に、これは最初のテストでは有効です。先生はどんな形式で出題するのか、穴埋めなのか説明方式なのか、記号問題はでるのか、生徒の関心はそういう形式にまず集中します。その疑問や不安を最初にといておくことは結構重要なことです。

二つ目は、暗記項目と考える項目を分けて事前に予告しておくことです。

社会科、公民科に対して、生徒は所詮は暗記だと考え対応することが往々にあります。

私たち教員はそうじゃないんだ理解だと力説しますが、考えるためにも知識の定着を見ておく必要があります。生徒が暗記だというのであれば、暗記をさせるという逆転の発想もよしではないでしょうか。ここは知っておかなければ話にならないよということで暗記項目を示して、頑張らせるのも効果的です。

暗記部分はできるだけ時間をかけずに採点できるように記号式でも、用語を書かせる方式でもとにかく単純につくることを勧めます。

三つ目は、考えさせる問題、書かせる問題は事前に提示しておくことです。

出題者からいえばここが本命なのですが、生徒から言えば一番嫌な箇所になります。それを積極的に取り組ませるには、場合によっては事前に問題候補をあげておき、準備をさせてのぞませることもあります。授業でここは考えろよ、といった箇所をそのまま出しても可です。ただし、この部分の得点は全体の2割くらいにしておくといえよう。

最近の学校は忙しい。だから、できるだけ最小のコストで最大の効果があがるようにしたいものです。そのためには、作成者が楽しんで作ることです。こんなテスト問題ありなの？と生徒が喜ぶような問題は、うんうんうなって作ったテストからはでてこないと思います。

お前のテストはどうかと詰問されそうですが、ひとつだけ事例をあげておきます。ホップズの『リヴァイアサン』の表紙絵を読み解かせた問題の最後に、現在の日本をホップズ流に絵解きしたらどうなるかという問題を出しました。生徒はいろいろなイラストを書きました。生徒がどのくらい社会契約説を理解したか、また日本の政治にどのように興味関心をもっているかが一目瞭然になりました。(新井)

【 4 】編集後記 (みみずのたはこと)

連休末に、ノーベル経済学を受賞したゲーリー・ベッカー教授がなくなったという新聞報道が飛び込んできました。ベッカー教授といえば、労働問題からはじまり、結婚、出産など人生のあらゆる問題を経済学で解こうとした人です。その業績には賛否両論が寄せられてきました。経済学だけでなく、合理性がどこまで通用するか、させるべきか、改めて考えるべき課題だと感じさせたニュースでした。(新井)

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>

=====



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

=====
(C) Network for Economic Education ◆◇